

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 東京天文台百年記念誌資料ーその3-27-3ー 東京天文台年表昭和44～46)**

筆者が引き継いだ東京天文台百年記念誌資料については、アーカイブ室新聞346号に「東京天文台100周年記念誌作成時の資料ーその1ー」、349号に「東京天文台100周年記念誌作成時の資料ーその2ー」、353号に「東京天文台100周年記念誌作成時の資料ーその3ー」、という記事を書いた。これらの資料は段ボール箱3個に入っていたので1箱目をーその1ー、2箱目をーその2ー、3箱目をーその3ーとしたのである。これらの資料についてリストのみでなく、内容を具体的に紹介する記事を書き始めたが、順不同で筆者が興味深いもののかってにピックアップして書いている。今回は3箱目の最後の48項目について報告したい。第353号のリストには、

27. 昭和24年～昭和52年と書かれた封筒 年表原稿 43枚

とある。アーカイブ新聞第835号(2015年6月25日)に「東京天文台百年記念誌資料Ⅲ-27について」という記事に書いたが、これは東京天文台百年記念誌資料の明治元年から昭和52年に亘る年表の原稿の一部であることが分かった。今回は昭和24年～昭和52年の年表の第3段で、この号では、昭和44年から昭和46年までの3年間の年表を掲載した。

昭和	要	項	出	典	号No.
44 (1969)					
44	1969年から東京天文台(写真天頂筒の中心を通る子午線)の採用 経度値が今までの $-9^{\circ}18'0.92930$ から $-9^{\circ}18'0.929355$ へ変更 第1表 東京天文台採用経度値の変遷 採用経度値と極厚真 観測厚真		月 62-5, p.115 1967 (昭42)		5173
44 3 28	東京天文台敷地 5548 m ² を公共物へ転入		東京大学一覽 昭44-45		16015
44 3 末	野田山太陽電波観測所の160MHz複合干渉計の東西系 ほぼ完成 最終調整中 表紙 野田山太陽電波観測所のアンテナ群 P.114 野田山太陽電波観測所の現況 4枚 1968年初夏, 1968年夏(2枚)1969年2月完成したアンテナ群 と観測標		月. 62-5, 表紙 P.114 4枚 1969 (昭44)		5172
44 3	喜通された方々、東京天文台 諸川 下保茂 3月27日送別会 東京大学 藤田長雄教授 3月28日 東大天文学教室, 最終講義 京都大学 敷内清教授 4月5日送別会		月. 62-5, P.114 1969 (昭44)		548
44 4 1	東京天文台に宇宙電波の研究部門を加える。(太陽電波部と宇宙電波部) 東京大学一覽 昭44-45				16018
44 7 21	人類 月に着陸。アポロ11号成功 アメリカ アポロ計画と月の地震 水谷仁(数理.地球物理学部) P.114 アポロ11号が持ち帰った月の石 8枚 提供アメリカ 大使館(USIS)		月 62-10, p.39. P.114 1969 (昭44)		9022
44 8	第16回 URSI 総会. 1969. 8月オタワにて開かた。 URSI (International Union of Radio Science) の 総会は3年ごと IAU の前身に開かれた。8つの分科会 第16回 URSI 総会報告 名古屋電研 田中春夫 P.114 カナダ アルコンキン 太陽観測用干渉計 45メートル 電波望遠鏡		月. 62-12, p.303 P.114 4枚 1969 (昭44)		9025
44 9	9月15日から19日までの5日間 デンマークのHelsingør (Elsinore) でIAU 42委員会主催の近接連星に関する国際コロキウム開催。 近接連星に関するIAUコロキウム 北村正利		月. 62-12, p.304 1969 (昭44)		5179
44 10 7	野田山太陽電波観測所の完成. 信州大学農場宿舎にて南 所式. 160MHz 太陽電波干渉計のアンテナ群直径6m		月. 62-12, P.114 4枚 1969 (昭44)		5177
44 12 2	宇宙電波誌誌会 落成 (正式落成は45/1月下旬)		月 63-1, p.17, 1970 (昭45)		5181
44	6mφ×9, 8mφ×2, 6mφ×6. 160MHz 太陽電波干渉計, 偏波		表紙 4枚		13017
44	トートン・シムス 赤道儀 口径20cm, 焦点距離270cm. 明治21年旗本館会 に東京天文台が設立されることになったとき, 内務省地理院の 経費. 学生であった平山信博士太陽黒点観測に利用, 他に太陽 彗星の観測に用いた。三鷹に移ったのは1931年北海道 斜里の日食におけるフラッシュスペクトル観測, その他昭38 現在旧菅の寺に復旧され, 上野の国立科学博物館に展示		月. 62-5, 表紙. 1969 (昭44)		5170

昭和	要 項	出 典	コードNo.
44 (1969)			
44	人工衛星用レーザー測距儀 ・表紙 (読売新聞社松沢氏撮影) 露出90分 左側のカメラから毎秒1回、継続時間2億分の5秒のレーザー光照射 ・アルバム 3枚、レーザー光照射部分	月. 62-4 表紙 FILM 372 1969 (0844)	5171
44	大型電波望遠鏡 森本雅樹 昭和26年建設 直径10mの電波望遠鏡、赤道儀式として 当時世界最大であったが、太陽電波の理論及び観測に、 宇宙・銀河電波の観測的研究進展のためには、大口径の パラボラアンテナ (口径45m) 必要	月. 62-8, p.199 1969 (0844)	5174
44	星間分子スペクトル線の検出と“宇宙電波分光学” 海部宣男 3. 東京天文台ミリ波アンテナによる星間分子観測計画。 6mミリ波用パラボラアンテナを用いて、ミリ波領域の分子 スペクトル観測を行う計画。	月. 62-9, p.212 1969 (0844)	5175
44	子午環観測と固有運動 安田春雄 才1図から才6図 (写真) ・東京の子午環 (8呎)、新しい接眼部 ・水平子午環 カナダ・オッタワ天文台、平面反射鏡部、 ・ワシントン7呎子午環、(アルシケン) エール、コンセン 南天観測所に移動。 ・最も新しい子午環 代リス グラブ・パーソンズ会社製7呎子午環 スペインカンフェルナド天文台、デンマークコペンハーゲン 天文台の子午環。 才42 20cm子午環 1903年製 東京天文台	月. 62-10, p.249 1969 (0844)	5215
44	東京大学天文学教室の60センチ反射望遠鏡 42年度より予算計画で建設中の60cm反射望遠鏡の一部 東大理学部3号館屋上の5mドーム内に設置。 合成焦点距離18m, F/30, 長焦点、f-ドーム、階下に分散の 新しい分光器を置き、都心でも観測可能な赤外線観測を行う	月. 62-11, FILM 372 1969 (0844)	9024
44	最近の太陽望遠鏡のニュース 西 忠三 才1図~17図 写真あり (月. 1962. 3月) 太陽面に見られる微細現象の物理的意義の解 明を目指す 才1図 カブリ島フランクホルター研究所のドーム型f-ドーム型屈折 望遠鏡 (物レンズ、口径35cm, 焦点距離465cm) 才6図、オーストラリア、カルガラの太陽屈折望遠鏡、口径30cm, 才8図、ロ 天文台の太陽塔望遠鏡、高さ34m, 才10図、米ワシントン天文台の太陽望 遠鏡、才13図、米カンフェルナド天文台の太陽望遠鏡、160cm、才14 太陽望遠鏡、才17図、フランクホルター研究所のスペクトロスコー	月. 62-12, p.292 1969 (0844)	5178

昭 和	要 項	出 典	カドNo.
44 (1969)			
44	古き東京天文台 1. 天文台全景 昭和の初め頃 2. 天文台旧本館 3. 65 cm 大赤道儀室 4. 観時堂 5. 大正10年東京天文台官制制定記念祝宴の記念撮影	月. 62-3, 74.12.5版 1969 (4344)	5169
44	6 m シリコン電波観測装置完成	天文台100年略年表	
44 1.	安田講堂封鎖解除.	"	
44	I ASY (太陽活動期国際観測年) 1969~71	"	
44 12.	日ソ共同観測の為に臺平観測所に AFU カメラ設置	"	

昭 和	号	項	出 典	冊No.
45	(1970)			
45	1. 24	東京天文台野辺山宿舎を新築	東京大学一覽 昭44-45	16013
45	1. 陽	研究者グループとしての宇宙態 正式発足 1月下旬 冬の勉強会9折 電波天文懇談会解消 QSO勉強会 冬の勉強会 今年度テーマ QSO(恒星状天体) 取り上げらる。於:ニ鷹・東京天文台講義室	月. 63-1, p.19, 1970 (昭45)	5181
45.	2. 11	国産衛星オース「おのみち」 1970. 2. 11 内の浦より打ち上げられた。 「おのみち」本体の写真と、打ち上げられて二ヶ月後のウーメラ観測所(オーストラリア)のペーカ・ナン・シュミットカメラでとられた「おのみち」の姿	月. 63-11, 表紙 1970(昭45)	9027
45.	2. 23	福見尚文死去 松山にて歿。想い出 佐藤友三記 写真あり 大正11.10月上旬 東京天文台着任。小倉伸吉、平山清次、松隈健彦の後のと色を編暦主任になる。昭和20.10.10に退官まで、神宮暦 編纂。天体暦。大正12から退官まで 理学部で暦訂等の諮議。昭8. 10.11に日食出張。昭14.6下旬~16.3月末 天文台長事務取扱。退官後も神宮暦の推算。 明29.7月才一高等学校卒業。全9月 東京帝国大学理科大学理学部入学。明42.7月卒業 大学院入学 理論物理学攻 明43.8~大10.2下 フランス ハリリ滞在。論文あり	月 63-5, p.120 1970 (昭45)	27
45.	3. 7	皆既日食。メキシコ 日食観測計画 斉藤国治	月. 63-2, p.37, 1970 (昭45)	5184
45	3. 7	1970.3.7 メキシコ日食で撮影された太陽コロナ ・フィルム 彩度直接写真 4枚, メキシコ日食の7ミリメートルフィルム 4枚 ・p.140 メキシコ日食観測記 斉藤国治記(佐晴 成功:昭45) メキシコ国・オハガ果 フエルト・エスコンティット町 東京天文台: 斉藤国治(団長), 牧田真, 秦武, 東条新 (臨時参加 竹内端夫) 花山天文台: 神野光男(副団長), 橋部生夫, 黒河宏企, 木路部: 森巧, 久保良雄。 ・p.146 牧田真	月. 63-6, 表紙 フィルム 8枚 p.140, p.146 1970(昭45)	5186
45.	3. 30	東京天文台 堂平山観測所西平連台所テラ処理室を新築	東京大学一覽 昭44-45	16012
45.	3. 31	大沢職員宿舎1号棟, 2号棟および才又武蔵野寮を新築	東京大学一覽 昭44-45	16011
45.	3.	東京天文台 3教授, 広瀬秀雄教授, 長次郎平教授, 虎尾正久教授 退官退官。退官記念談話会 1970.3.13	月. 63-4, p.114 1970 (昭45)	549
45.	4. 17	東京天文台 野辺山太陽電波観測所を設置	東京大学一覽 昭44-45	16010
45	4.	野辺山太陽電波観測所, 4月東京天文台の村舎施設として発足 表紙: 160 MHz 複合干渉計1.831x'ストー4とⅢ型ハース の観測(1970.10.16) フィルム: 野辺山太陽電波観測所 全景他 p.311: 野辺山太陽電波観測所(160MHz複合干渉計)甲北観測	月. 63-12, 表紙 フィルム p.311 1970(昭45)	5191

昭和	要 項	出 典	カード No.
45 (1970)			
45 5. 1	昭和45年5月1日現在の職歴. 会長 古川正秋 etc.	東京大学一覽 昭44-45	16006
45 5. 1	昭和45年5月1日現在の旧職歴の名簿. 就任, 退任, 転任の年月日が寺尾寿台長以下の211名.	東京大学一覽 昭44-45	16009
45. 8.	才木四工AVI 総会. 1970. 8月. 於英国サセックス州 ブライトン. 有務報告(指名委員会), 才木(夜文光)委員会, 観測天体物理学に於ける 自動化プログラム No. 11 古川正秋 他.	月. 63-11, プルハム p279~ I AVI 才木4回総会録集 1970(昭45)	9028
45.	1.2mφ X 12 17 GHz 太陽電波干渉計	赤羽氏	13018
45	東京天文台建物 配置図	東京大学一覽 昭44-45	16003
45	東京天文台 捕集録 天文台の厂史, 研究部・室の紹介, 研究施設の紹介 本 と比べておられる	東京大学一覽 昭44-45	16008
45	表紙 オーストラリア, 電波びわく太陽 カルグーラ. ラジオヘリオグラフ でとられた太陽の電波バースト	月. 63-1, 表紙, プルハム p.7. 1970 (昭45)	9026
45	プルハム 10枚. オーストラリア, カルグーラ太陽観測所 80 X 80 ヘルツ ラジオヘリオグラフによって撮られた H 型バースト(1930.3.30撮影) p.7. カルグーラ. ラジオヘリオグラフ電波びわく太陽の第一 甲斐敬造 東京天文台 65センチ屈折望遠鏡 写真あり 古川正秋 1960年岡山に188cm 反射望遠鏡が完成すると30年ぶりに地球 最大の望遠鏡として東京天文台のシンボリックに存在.	月. 63-1, p.21 1970 (昭45)	5180
45	人工衛星ロケット観測. (対準) ヴェロ人工衛星カメラ AFU-75 (設計 K. フロマン博士) 口径20センチ, 焦点距離76センチの航 空子機用. 対準軸の傾角を90度から75度の間で調節し, 4回に わたって追跡可能	月. 63-2, プルハム 3枚 1970 (昭46)	5182
45	三鷹の10メートル電波望遠鏡 赤羽賢司 1950年菅原台長のもとに. 建設計画の大綱がまとまり, 故郷中教 授, 鈴木, 守山, 渋谷, 赤羽 建設に当たります. 当時アメリカ海軍 研究所の口径15メートル経緯儀式が世界最大. 口径10メートル口径赤道 儀式が国際協定で口径10センチメートルで太陽電波の観測 を行おうことになった.	月. 63-2, p.49. 1970 (昭45)	5183
45.	東京天文台の塔望遠鏡 末元善三郎記 写真あり 高さ15mの塔の頂に口径60cmの大シロスクット及補助鏡, 直径45cm, 焦点距離14mの対物レンズが据えられてあり, 平地の分光器室には大プリズム分光器と, 焦点距離12m の屈折格子分光器とがあり, 建設後10数年を経ている当時 において世界屈指の太陽望遠鏡の一つであった.	月. 63-8, p.215. 1970 (昭45)	5187
45	初基の口径シニョットカメラ 口径19cm. 焦点距離17cm 口径像0.9, 写野直径15度 p223, シニョット望遠鏡の建設への道. 埼玉大 灰瀬秀雄 他.	月. 63-9, 表紙 他 シニョット望遠鏡集 1970 (昭45) p223~p225	5188

昭和	要 項	出 典	カト'No.
45(1970)			
45	写真乾板測定機のいろいろ 1. 産標測定器 (東独ツハイス製, 三鷹) 2. " (米田コン製, 三鷹) 3. プリンクコンパレータ (日本光学製, 三鷹) 4. スペクトル比較測定器 (日本光学製, 岡山) 5. 比較式マイクロホメータ (日本光学製 岡山) 6. 写真測長測定器 (日本光学製, 岡山) 7. イソホメータ (ナニ製, 三鷹) 8. マイロホメータ (三鷹光機製, 三鷹) 9. ミクロテンシメータ (ナニ製, 三鷹)	月. 63-7, p.114 94 1970 (0245)	5189
45	堂平観測所のヘーカー・ナン・シュミットカメラ 平山智啓記 人工衛星の位置観測のためのカメラ (月報 1958.5, 1968.5に詳 (い記事あり)) マウントめくり ヘーカー・ナン カメラ 写真あり 赤羽賢司記	月. 63-9, p.241. 1970 (0245) 月. 67-2, p.65 1974 (0247)	5206
45	岡山 188センチ反射望遠鏡 石田五郎記 1960年据付当時, 世界で第6位にランクされた。有効口径 188cm, ケーリスのクラフ・パーヤニス製 ニエートレンズ 9,150mm 口径比 48 ケーブルレンズ 38,855 18 ケーブルレンズ 54,290 29 マウントめくり 岡山の74cm望遠鏡	月. 67-11, p.301 -写真あり 1970 (0245) 月. 67-3, p.73 1974 (0247)	5170
45	12cm コロナグラフ (赤井) 清水一郎記 昭和25年手作りのコロナグラフに代って据付けられた。世界で最も 小型のクラスに属するコロナグラフ。戦後に東京天文台が製作 した望遠鏡の才一号機。	月. 63-12, p.329, 1970 (0245)	5192
45.	IAU 第14回総会において月の裏側の地形に名前がつけられた。 日本人科学者の名前は6大口につけられ, 赤村栄, 長岡羊太郎, 仁科芳雄, 畑中武夫 平山信, 平山清次, 山本一清の7名 表紙 月の裏側の大口 ル・ノビッチ撮影	月. 64-2, 表紙 p.114 1971 (0246)	9029
45	三鷹 20センチ(8吋)口径 写真あり 甲野三郎	月. 63-4, p.105. 1970 (0246)	5185
45	岡山天体物理観測所十周年	月. 64-1, p.114 2 1971 (0246)	5193
45 10. 19.	岡山天体物理観測所開設10周年記念式典挙行	天文台 100年 1971年表上	
45	大学改革委員会(教官)設置	"	

期 和	要 項	出 典	カトNo.
46 (1971)			
46 1.22~23 2.15~19	レーザー光による月測距実験 レーザー光を用いて月までの距離を測定する実験が岡山天体 物理観測所の188センチ反射鏡を使い、昭和46年1月22日~ 23日、2月15~19日の未明に東京天文台と日立製作所の共同 で行われた。	月. 64-3, フィルム6枚 1971 (昭46)	5194
46年初	25センチメートル口径の1971年初め日本光学工場で完成し 調整、据付を待っている。東京天文台で建設、乗鞍コロナ観 測所に設置予定、視観、光学系、全容	月. 64-6, フィルム3枚 1971 (昭46)	5196
46. 3.	大型望遠鏡の設計 山下泰正記 1971.3月国際会議ジュネーブで開催。ESO (ヨーロッパ南天文台) と CERN (原子核ヨーロッパ共同研究所) の共催。報告6月に出版 33 (Large Telescope Design, ed. R.M. West, ESO Hamburg (1971))	月. 64-12, p.326 1971 (昭46) 月. 64-2, p.38 1971 (昭46)	9033
46 4.	105cm シュミット望遠鏡の設計画で建造開始。	月. 68-1, p.24 1973 (昭48)	5160
46. 4.	日本とインドの協同研究。1971.4月インドハイderabadにて 日印天文台と物理学者により Sco X-1 の X線と光に53 同時観測を行った。インド天文台X線と光の観測結果が出版。日印共同研究 p.109. Sco X-1 の X線と光の日印共同観測。宇宙研 松岡 勝 p.110. Sco X-1 星の光学観測 泉 末紀 天橋 畑中至純	月. 64-3, フィルム, p.107, p.110 1971 (昭46)	5197
46. 9. 28	初の国産科学衛星「しんせい」の打ち上げ。科学衛星 MS-F2 9月28日午後1時鹿児島県内三浦で打ち上げ。 (表紙) フィルム。ミュー4S型のロケットで打ち上げられた科学衛星 MS-F2。 p.306. 衛星。重量約70kg. 最大直径約75cm. 短波帯太陽電波、宇宙線、電磁波の観測装置を備えている	月. 64-11, 表紙, フィルム2枚 p.306 1971 (昭46)	7031
46 11 中旬	基線差形の測定。 三鷹の東京天文台構内にある一辺100mの基線差形が 国土地理院の手により、昭和46.11月中旬、十数年ぶりに 測定された。一辺100mの正方形。長い方の対角線の長さ 173m. 短い方100m.	月. 65-1, フィルム5枚 1972 (昭47)	9034
46.	表紙。据付を終った乗鞍新コロナグラフ。25cm f-7型 コロナグラフ、ドーナツ直径12m, コロナグラフの径2.5m. 日本光学が3年ばかりで製作、乗鞍観測所に1971年夏から秋 にかけて据付けた。	月. 65-1, 表紙 フィルム2枚 1972 (昭47)	5198
46	6m中 70GHz, 80GHz, 90GHz. 強度, スペクトル, 星間分子, 電波星, 惑星.	赤科氏	13019

年 和	要 項	出 典	カトNo.
46 (1971)	大気吸収観測装置 70 GHz 可搬型	赤羽氏	13020
46.	表紙 東京天文台 6m シリ波望遠鏡 P.11 シリ波望遠鏡 赤羽賢司, 村岡~7図, 才1表. フィルム 2枚 6m シリ波望遠鏡建設風景. P.7. 日本宇宙電波 森本雅樹 P.67-6, p.195, 1974 マウントめぐり 6m シリ波望遠鏡 赤羽記	月. 64-1, 表紙, P.11, フィルム2枚 宇宙電波特集 1971(0246) 月. 67-6, p.175 1974(0249)	5213
46.	表紙 月の裏側の火口 ルナ・オービタ-撮影 フィルム 月の火口と日本人.	月. 64-2, 表紙, フィルム 1971(0246)	9029
46	光電測光の自動化 東京天文台の岡山天体物理観測所と壱平観測所とに, 光電測 光の光のデータ集録装置完成.	月. 64-4, フィルム2枚 1971(0246)	5195
46	ロケットによる天文観測 東京大学宇宙航空研究所鹿児島宇宙空間観測所 K-10-7号機 黄道光偏光観測器搭載 K-10-6号機 太陽真空紫外領域分光測光器搭載	月. 64-10, フィルム9枚 1971(0246)	7030
46	フレア星の三色測光 (フィルム) 東京天文台岡山天体物理観測所でフレア星の三色測光が初めて 光電管の前で3つのフィルタを並べた方式 とかげ座フレア星 (表紙)	月. 65-2, 表紙 フィルム4枚 1972(0247)	5207
46.12 ~	人工衛星による測地観測 1971.12月か5 1972.1月にかけて人工衛星を使っての日ソ共同測 地観測. エージノサハリンスク (ソ連サハリン), ウランバートル(モンゴ) 董平山(日本)の3点を基点とする同時観測. ソ連からラフ-シユカ氏 (ソビエト天文台)が算出し, 日本では東京天文台と国土地理院がこれに 参加.	月 65-2, フィルム3枚 1972(0247)	5200
46. 6 ~	1971年 6月半ばから3ヶ月間, 文部省短期在外研究員研修の 交付金受け巡歴. 世界のシムット望遠鏡を訪れて (フィルム). ハロー 48インチシムット 望遠鏡, ハンブルグ天文台の80cm シムット望遠鏡 p.63 シムット望遠鏡 歴訪記 高瀬文志郎記	月. 65-3, フィルム8枚 p.63. 1972(0247)	9036
46. 9. 12	水産部 明治4年7月25日(旧暦)に創設され, 昭和46年9月12日で満100 年となった. 水産部を築いた人々 - 創設100年にあたって - 追記	月. 64-11, p.295 1971(0246)	7032

昭和	要	項	出	典	コードNo.
46 (1971)					
46. 2. 16	科学衛星オリエール打上げ成功			天文台100年百年巻	
46. 3.	シニット望遠鏡建設委員会設置			"	
46. 4.	銀河系部門が設置され銀河系部発足			"	
46. 6.	天文台の国際テレックス開局			"	
46. 7.	人工衛星レーザ測距儀を基干に設置			"	
46.	真空紫外領域実験室らと真空紫外領域分光絶対校正測定装置完成.			"	
46. 8.	IAU地球回転シンポジウム開催(盛岡市)			"	
46. 9.	宇宙航空研究所のロケットにより真空紫外領域の太陽スペクトル初観測(西ら)			"	
46. 9.	宇宙航空研究所のロケットによる太陽観測の予備実験(47年2月本観測).			"	
46. 10.	野田山に17 GHz干渉計が完成し観測開始			"	
46. 10 ~ 47. 3	小笠原でJASY(太陽活動初期国際観測年)のX線光観測			"	
46.	ベネト彗星出現			"	

この号では、昭和 44 年から昭和 46 年までの 3 年間の年表を掲載した。次号には昭和 47 年分から掲載する。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp